

殺菌剤

日曹

フロンサイド[®]SC

(フロアブル)

登録番号

第18751号

性 状

淡黄色水和性粘稠懸濁液体

有効期限

3年

毒 性

普通物（毒劇物に該当しないものをさしている通称）

包 装

500ml × 20本

殺菌剤分類

29

有効成分

フルアジナム 39.5%

種 類 名

フルアジナム水和剤

日曹の農薬

- 特 長
1. 抗菌スペクトルが極めて広い殺菌剤です。

2. 植物病原菌の各感染過程を低濃度で強力に阻害します。

3. 低濃度で高い予防効果があります。

4. 薬剤耐性菌にも優れた効果があります。

5. ハダニの密度抑制効果があります。
- 

製品ページはこちら

■適用病害虫名及び使用方法

(2025年5月28日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	フルアジナム を含む農薬の 総使用回数	使用方法
かんきつ	そうか病	2,000～ 2,500	200～700 L/10a	収穫30日前 まで	1回	1回	散布
	灰色かび病						
	黒点病	2,000			1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	
	ミカンハダニ						
	ミカンサビダニ						
	チャノホコリダニ						
なし	黒斑病	2,000～ 2,500	50～100 L/樹	1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)		土壌灌注
	黒星病						
	輪紋病	2,000				100～200 L/樹	1回
	白紋羽病	500					
		1,000					
びわ	灰斑病	2,000	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	1回	2回以内 (散布または 落葉に散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	土壌灌注
	白紋羽病	500	50～100 L/樹	収穫後から 開花前まで	1回		散布
		1,000	100～200 L/樹				
りんご	斑点落葉病	2,000～ 2,500	200～700 L/10a	収穫45日前 まで	1回	2回以内 (散布または 落葉に散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	散布
	すす点病						
	すす斑病						
	褐斑病						
	黒星病	1,000～ 2,000	100～200 L/10a	落葉後～ 展葉期まで	1回		落葉に 散布
	輪紋病						
	モニリア病	2,000	200～700 L/10a	収穫45日前 まで	1回		散布
	白紋羽病						
	紫紋羽病	500	50～100 L/樹	1回	土壌灌注		
	白紋羽病						
	紫紋羽病	1,000	100～200 L/樹				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	フルアジナム を含む農薬の 総使用回数	使用方法
りんご(苗木)	白紋羽病	500	－	植付時	1回	2回以内 (苗木浸漬は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	20分間 苗木浸漬
	紫紋羽病		25～50 L/樹	植付後 但し、 収穫開始 1年前まで	1回		土壌灌注
	白紋羽病						
	紫紋羽病						
小粒核果類 (うめを除く)	白紋羽病		50～100 L/樹	収穫後から 開花前まで 但し、収穫60日 前まで	1回	1回	土壌灌注
もも	灰星病	2,000	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	散布
	ホモプシス腐敗病						土壌灌注
	白紋羽病	500	50～100 L/樹	収穫30日前 まで	1回	1回	
		1,000	100～200 L/樹				
ネクタリン		500	50～100 L/樹				
うめ	黒星病	2,000	200～700 L/10a	発芽期まで 但し、収穫60日 前まで	1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	散布
	灰色かび病						土壌灌注
		白紋羽病	500	50～100 L/樹	収穫後から 開花前まで 但し、収穫60日 前まで	1回	
おうとう いちじく				収穫30日前 まで	1回	1回	
ぶどう	晩腐病	2,000	200～700 L/10a	開花直前～ 落弁期 但し、 収穫60日前 まで	1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	散布
	黒とう病						
	べと病						
	灰色かび病						
	枝膨病						
	白紋羽病	500	50～100 L/樹	収穫21日前 まで	1回		土壌灌注
		1,000	100～200 L/樹				
ブルーベリー		500	50～100 L/樹		1回		
	根腐疫病						
かき	落葉病	2,000	200～700 L/10a	収穫45日前 まで	1回	1回	散布
	黒星落葉病						
	炭疽病						
	灰色かび病						
キウイフルーツ	白紋羽病	500	100 L/樹	収穫30日前 まで	1回	2回以内 (散布は 1回以内、 土壌灌注は 1回以内)	土壌灌注
	灰色かび病	2,000	200～700 L/10a		1回		散布
	果実軟腐病						
キウイフルーツ (苗木)	白紋羽病	500倍	－	植付時	1回	1回	1時間 苗木浸漬

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	フルアジナム を含む農薬の 総使用回数	使用方法
かんしょ	基腐病	1,000	100～300 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	3回以内 (植付前は 1回以内、 植付後は 2回以内)	
ばれいしょ	疫病	500	25L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	6回以内 (種いも浸漬 は1回以内、 植付前の 土壌混和及び 植付時の 植溝散布は 合計1回以内、 植付後の 散布は 4回以内)	散布
	菌核病	1,000～ 2,000	100～300 L/10a				
	夏疫病	2,000					
	軟腐病	1,000					
	そうか病	100	－	植付前	1回	種いも 瞬間浸漬	
やまのいも	葉渋病	2,000	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	4回以内	5回以内 (植付前の 土壌混和は 1回以内、 植付後の 散布は 4回以内)	散布
やまのいも (むかご)	葉渋病	2,000			4回以内		
ごぼう	黒条病	1,000		収穫21日前 まで	3回以内	3回以内	
てんさい	褐斑病				収穫30日前 まで	4回以内	5回以内 (は種前の 土壌混和及び 苗床灌注は 合計1回以内、 株元散布及び 散布は合計 4回以内)
	根腐病	1,000～ 2,000					
	黒根病	1,000	3L/m ²	移植前	1回	苗床 土壌灌注	
にんじん	黒葉枯病	1,000	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	3回以内	散布
たまねぎ	乾腐病	50	－	定植直前	1回	7回以内 (全面土壌 混和は 1回以内、 苗根部浸漬は 1回以内、 散布は 5回以内)	5分間 苗根部 浸漬
	灰色腐敗病	1,000～ 2,000	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	5回以内		散布
	べと病						
	灰色かび病	250～ 500	25L/10a				
	白色疫病	1,000	100～300 L/10a				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	フルアジナム を含む農薬の 総使用回数	使用方法
食用ゆり	葉枯病	1,000	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	6回以内	8回以内 (球根瞬間 浸漬は 2回以内、 散布は 6回以内)	散布
	鱗茎さび症	50	－	植付前	2回以内		球根瞬間 浸漬
らっきょう	灰色かび病	1,000～ 2,000	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	5回以内	5回以内	散布
あずき	炭疽病			収穫21日前 まで	3回以内	3回以内	
	灰色かび病						
	菌核病	1,000					
いんげんまめ	炭疽病	1,000～ 2,000		収穫7日前 まで			
	灰色かび病						
	菌核病	1,000					
べにばないんげん	灰色かび病			収穫14日前 まで	5回以内	5回以内	
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病	2,000		収穫終了後 但し、秋期まで			
	斑点病						
いちご	炭疽病	1,000	50mL/株	育苗期	1回	1回	灌注
小麦	紅色雪腐病	1,000	60～150 L/10a	根雪前	2回以内	3回以内 (は種前は 1回以内、 は種後は 2回以内)	散布
	雪腐大粒菌核病						
	なまぐさ黒穂病						
	雪腐小粒菌核病	1,000～ 2,000	25L/10a				
		250					
茶	炭疽病	2,000	200～400 L/10a	摘採14日前 まで	1回	1回	
	輪斑病						
	新梢枯死症 (輪斑病菌による)						
	もち病						
	網もち病						
	灰色かび病						
	褐色円星病						
	チャノホコリダニ						
ゆり	茎腐症 (リゾプス菌による)	500	3L/m ²	定植後	2回以内	3回以内	土壌灌注
うるし	白紋羽病		20～50 L/樹	発病前	1回	1回	

作物名	適用病害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
		薬量 (mL/10a)	希釈水量 (L/10a)				
かんしょ	基腐病	500	50～200	植付前	1回	3回以内 (植付前は1回以内、 植付後は2回以内)	全面散布 土壌混和
ばれいしょ	粉状そうか病	400～600	100～200		1回	6回以内 (種いも浸漬は 1回以内、植付前の 土壌混和及び 植付時の 植溝散布は 合計1回以内、 植付後の散布は 4回以内)	全面散布 土壌混和
	そうか病	200	20	植付時	1回		植溝散布
やまのいも	褐色腐敗病	500	100～200	植付前	1回	5回以内 (植付前の 土壌混和は 1回以内、 植付後の散布は 4回以内)	全面散布 土壌混和
かぶ	根こぶ病			は種前	1回	1回	
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)						
カリフラワー	根こぶ病			定植前	1回	1回	
ブロッコリー							
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		は種又は 定植前	2回以内 (苗床では 1回以内、 本圃では 1回以内)	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は 1回以内、 土壌散布は 1回以内)	全面土壌 散布	
	菌核病						
	根こぶ病						
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		定植前	1回			
	菌核病						
	株腐病						
はくさい	根こぶ病		100～200	定植前	1回	2回以内 (土壌混和は 1回以内、 土壌散布は 1回以内)	全面散布 土壌混和
	尻腐病				1回		全面土壌 散布
	軟腐病				1回		全面散布 土壌混和
レタス 非結球レタス	ビッグバイン病				1回		全面土壌 散布
	すそ枯病				1回		
	軟腐病				1回		
小麦	縞萎縮病	600	100	は種前	1回	3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)	全面散布 土壌混和
	なまぐさ黒穂病	500					
チューリップ	微斑モザイク病		100～200	植付前	1回	7回以内	
	条斑病						

効果・薬害などの注意

1. 使用直前に容器をよく振ってください。
2. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
3. 保護効果主体の薬剤であり、病原菌に感染した後の散布では効果が不十分な場合があるので散布時期に注意してください。
4. かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - (1) レモンには薬害を生じるので使用をさけてください。
 - (2) 病害とミカンハダニの同時防除に使用する場合、かけ残しのないようにていねいに散布してください。
5. なしに使用する場合は、幸水等の赤なしの幼木や樹勢の劣る樹では、新葉に薬害が発生するおそれがあるので注意してください。
6. ぶどうに使用する場合、葉や果実に薬害が発生するおそれがあるので、使用時期を厳守してください。
なお、ネオマスカットは特に薬害を生じやすいので使用をさけてください。
7. いちごに使用する場合、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
8. 本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので注意してください。特に、なし、ぶどう、もも及びうめでは十分注意してください。
なお、うめについては発芽期までの使用に留めてください。
9. きゅうり、レタス等には薬害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意して散布してください。
10. 土壌灌注する場合は、次の事項に注意してください。
 - (1) 白紋羽病、紫紋羽病に使用する場合は、樹幹から半径1m 程度の範囲を掘り上げて根部を露出させ、病根を除去した後所定濃度の薬液を灌注し埋め戻すか、半径1m 程度の範囲に土壌灌注機を用いて所定量の薬液を灌注してください。但し土壌灌注機による灌注は予防的使用か軽症樹に限って行ってください。
 - (2) 苗木に使用する場合は、植付時に所定量の薬液を灌注しながら掘り上げた土を埋め戻すか、植付後に土壌灌注機を用いて所定量を注入してください。
 - (3) 適用の範囲内で、樹の大きさにより灌注水量を調節してください。
 - (4) 10 アール当たりの処理本数が多い場合には、150 本を超えないように適用の範囲内で使用してください。
11. 全面散布土壌混和で使用する場合は、所定量の薬量を均一に散布し、土壌と十分混和してください。降雨直後の処理は、混和むらの原因となるのでさけてください。
12. 根こぶ病を対象に本剤を多量に使用すると初期生育が抑制される場合があるので、適用薬量の範囲で使用してください。
13. 全面土壌散布で使用する場合は、畦立て作業後に所定量の薬量を均一に散布してください。
14. キャベツ、はくさい、レタス及び非結球レタスの全面土壌散布では、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後回復し、作物の生育、収量に影響はありません。
(定植後の多雨または、過度の灌水条件で発生しやすいです。)
15. だいこんに使用する場合は、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後の生育には影響しません。
16. 落葉に散布で使用する場合は、ほ場内で落葉に対して均一に散布してください。
17. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
18. 小麦、ばれいしょ、たまねぎに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
19. 使用に当たっては使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
20. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

21. 皮膚感作性を有するため、皮膚かぶれなどを生じることがあるので、以下の点に注意してください。

- (1) かぶれやすい体質の人及び本剤又は他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触はさけてください。
- (2) 薬液調製時及び使用の際は、帽子、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
- (3) 降雨時、又は樹木が濡れている場合には作業を行わないでください。
- (4) 剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業をすませてから使用してください。
- (5) 使用後の入園はできる限り期間をおいてください。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では少なくとも7～10日間の期間をあけてください。
- (6) 使用後の入園の際も、帽子、保護メガネ、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
- (7) 使用した後及び摘果などのため使用後入園し作業した後は、直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- (8) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- (9) 施設内では使用しないでください。
- (10) 高温、多湿時に長時間の使用及び作業はさけてください。
- (11) 苗床で使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意してください。

22. 眼及び皮膚に対して刺激性があるので薬剤が眼に入ったり、皮膚に付着しないよう注意してください。

眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。

皮膚に付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。

散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 保管上の注意

密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

○空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

※いちご分野での安全使用について

いちご分野での使用に際し、下記の使用上の注意事項に関し、厳守してください。

◎本剤は、皮膚感作性を有するため、皮膚かぶれ等を生じることがありますので、いちごの使用においては、以下の点に特にご注意ください。

- ①かぶれやすい体質の人及び本剤又は他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触はさけてください。
- ②施設内では使用しないでください(育苗ハウスは施設に該当します)。
- ③薬剤調製、処理、処理後の作業時において、メガネ、マスク、不浸透性手袋、防除衣に係る注意事項を遵守してください。
- ④処理後から再入園までの期間は、できるだけあけてください。
(7～ 10 日間を目安に現地作業事情を考慮し、できるだけ期間をあけてください。)
- ⑤育苗管理作業を済ませてから、本剤を使用してください。
- ⑥高温、多湿時の長時間の散布(灌注)作業及び管理作業はさけてください。
- ⑦処理後の採苗・定植作業時は、必ず手袋を着用して作業をおこない、直接苗(土壌も含む)に触れないように注意してください。
- ⑧処理及び作業時は風通しが良い、常に換気できる環境下となるよう努めてください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。

●小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。